



つなぐ

Vol.147

2022
Summer

令和4年7月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 広報委員会
委員長 月岡 幽美子

〒380-0936
長野市大字中御所字岡田98番地1
(長野県社会福祉協議会内)

特集：民生児童委員の原点を学ぶ

Contents

- ◆ 特集 民生児童委員の原点を学ぶ
 - 訪問 小河滋次郎博士顕彰会 2~3
 - インタビュー
長野県共同募金会 合津文雄会長 ... 4~5
- ◆ 民児協訪問
 - 高森町民生児童委員協議会 6
 - 坂城町民生児童委員協議会 7
- ◆ 令和4年度長野県民生委員児童委員協議会連合会事業計画 8
- ◆ 民生児童委員活動報告 8

おがわしげじろう
小河滋次郎博士顕彰会
 けんしょう

民生児童委員制度の原点「方面委員制度」の立役者は上田市出身。「弱き者の友たれ」を貫いた郷土の偉人をもっと知ってほしい。

桜や紅葉の名所として親しまれ、観光客を楽しませている上田城跡公園。上田城は、真田昌幸の築城からいくどもの変遷を経た450年近い歴史でも知られています。一方、本丸の鬼門除けの上あたりに設置された胸像について知る人は、上田市民でさえ多くないようです。胸像の主は小河滋次郎博士。民生児童委員制度の生みの親とさえいわれる重要な人物です。

この小河博士をもっと広く知ってほしいと活動しているグループがあります。「小河滋次郎博士顕彰会」です。

上田市誌「明日をひらいた上田の人びと」をきっかけに高まった関心から顕彰会発足へ

顕彰会会長の横澤瑛さんは「設立のきっかけになったのはこれ」と「明日をひらいた上田の人びと」という冊子を差し込みました。平成11年に上田市が市政施行80周年を迎えたのに際して刊行した上田市誌全31巻の28巻目にあたる「人物編」。上田市出身、あるいは市に大きな影響を与えた125人を紹介しているもので、鎌倉時代の北条義政、上田城を築いた真田昌幸と長男・信之、次男・信繁などと並び小河滋次郎が「監獄制度改良と方面委員（民生委員）制度の創設者」として取り上げられています。

横澤会長は、その執筆担当者でした。小学校教員から校長、信濃国分寺資料館長、そして市誌編集委員でもあった横澤さんは主任児童委員の経験も。滋次郎を知る以前、調査で訪れた上田城で胸像に出合ったときの印象を「変わった人がいるなあと考えた」と振り返ります。市誌を機に小河博士に関心をもつ人が少しずつ増え、設立準備会を経て平成28年7月に「小河滋次郎博士顕彰会」が、市民有志により正式発足。会員は現在30人になっています。

大阪の救済事業を方面委員制度として結実させる

民生委員制度は、大正6（1917）年に岡山県で創設された「済世願

問制度」が源とされ、制度百周年記念は2017年に、「民生委員・児童委員の日」は同制度の創設日に定められています。ただ制度の前身とされる「方面委員」制度は大正7年に大阪府で始まりました。府の民生委員児童委員協議会連合会のホームページでは、方面委員制度創設者の林市蔵知事（当時）を「民生委員の父」と称賛しつつ、小河滋次郎博士の写真を知事と並べて掲載しています。急激な都市化などによる貧困問題に心を痛めた知事の片腕として制度を設計し、具体化したのが小河滋次郎だからです。当時55歳、大阪府に招へいされ、救済事業に取り組み始めて5年目でした。

小河博士の方針は、医者が患者の診察をして原因や症状を確かめるように、社会の状態を調査し、真相を明らかにしてからふさわしい対策を講じるという科学的手法に、特徴がありました。そのため、担当地区内の生活調査をし、要救護者の状況から改善策の適否の判断するのが委員の職務でした。小学校の通学区を単位とし、知事の委嘱による名誉職で無給であるのも当初からの設計です。特筆すべきは委員の人選で、滋次郎は女性の登用を強く主張し、地方の名士まではいかない地域の世話好きな人としたのです。具体的には市町村吏員、警察吏員や学校や救済事業の関係者など方面（地域）在住の中間層から人選されました。目指すのは自立ですから、ふさわしい信頼と指導力も備えていなければなりません。この人選は、富裕層の名譽職では貧困者からの反感を招きかねないという救済事業のパラドックスを避けることにもなり、その後全国に波及し、現在にもつながる制度継続の一因となっています。



▲今年開催できた定期総会で紙芝居など顕彰活動ツールとともに

民生児童委員の原点を学ぶ

2020年春以降、過去2年以上にわたって、コロナ禍で民生児童委員の活動を制限・縮小せざるを得ない状況を経験してきました。これを機に原点回帰することで、民生児童委員はどういう目的で生まれたのか、またどうあるべきなのかを学び考える特集とします。

まず、方面委員（民生委員）制度の創設者と言われる上田市出身の小河滋次郎（1864-1925）について、民生児童委員経験者が中心となって学ぶ「小河滋次郎博士顕彰会」を訪ねました。

また、民生児童委員が関わる「赤い羽根共同募金」運動との関係について、長野県共同募金会の合津文雄会長に話をお聞きしました。

小河滋次郎略年譜

- 1864年 上田藩医の次男として現在の上田市に出生
- 1878年 上田変則中学を終え慶應義塾医学所入学
- 1880年 東京外国語学校入学
- 1882年 同校を中退して東京専門学校邦語法律科入学
- 1883年 東京大学法学部別課法学科入学
- 1886年 内務省警保局保安課勤務
- 1890年 監獄官練習所に転属勤務
- 1895年 万国監獄会議日本委員としてパリへ
- 1898年 内務省監獄課長、東京帝国大学法科大学で監獄学担当
- 1905年 ブダペストで開催の万国監獄会議に政府委員として出席
- 1906年 学位論文「未成年者ニ対スル刑事制度ノ改良ニ就テ」で法学博士号
- 1908年 清国政府の招聘で教授をしつつ清国の刑法改正作業
- 1912年 欧米の感化救済事業調査囑託
- 1913年 大阪府吏員・府救済事業指導囑託
- 1918年 大阪府方面委員制度創設
- 1921年 内務省社会事業調査会臨時委員
- 1924年 大阪府囑託を辞任、病気で入院
- 1925年 死去、従四位勲四等



活動の間間まとめとして発行した冊子 ▶

滋次郎の信条「弱者の友たれ」をタイトルに冊子発行

滋次郎が方面委員制度をつくったのは、62歳という寿命からみると晩年でしたが、その生涯は自らの信条「弱者の友たれ」の実践で一貫していました。文久3（1864）年、上田藩医の家に生まれ医学、語学（独語）、法学など幅広い学問を学ぶと明治19年、23歳で内務省警保局保安課に入ります。欧州諸国の制度を取り入れながら近代国家建設に邁進していた明治政府の招く外国人専門家の通訳を務め、国の代表として万国監獄会議出席や欧米視察を重ね、監獄の学問及び行政の第一人者となっていきました。収監者の人権は尊重すべく、特に少年犯罪については刑の厳格化ではなく感化教育によって更生させるべきとの信念で一貫していました。

顕彰会が共有し広く知らしめたいのも、このような「弱者の友たれ」の意志です。平成31（2019）年に、これまでの活動のまとめとして冊子を発行しましたが、滋次郎の信条をそのまま書名にしています。

9人の会員が分担して執筆した冊子は、滋次郎の生い立ちから思想や人脈、行政の立場で取り組んだ数々の業績、意見の違いがあっても決して信念を曲げないことからくる波乱や紆余曲折、外地での活躍、実績をかわれて招へいされた大阪で創設した方面委員制度や死去までを幅広く紹介。ジャーナリスト志望もあつたという滋次郎が残した論文など膨大な文書と関連資料にあつた本格的な調査論文から、信州人らしい一徹さがユニークにも感じられる人となりやエピソードも盛り込んだ多彩な内容から、滋次郎研究への情熱と深い知識が伝わってきます。

研究しながらの顕彰活動と、「知る」を超えた実践へ

冊子の内容からも分かるように、会員それぞれが滋次郎研究者。「小河滋次郎博士顕彰会」も二ユーエス」を毎月発行し、例会は持ち回りで研究の成果をプレゼン、知識を共有することで学習を重ねています。顕彰活動のためにはまず会員が知る必要があるからです。知るに留まっていたのは滋次郎の意志に反すると、一人一人が弱者の友としてできることを実践すべき段階との声も上がるようになりました。

冊子の内容からも分かるように、会員それぞれが滋次郎研究者。「小河滋次郎博士顕彰会」も二ユーエス」を毎月発行し、例会は持ち回りで研究の成果をプレゼン、知識を共有することで学習を重ねています。顕彰活動のためにはまず会員が知る必要があるからです。知るに留まっていたのは滋次郎の意志に反すると、一人一人が弱者の友としてできることを実践すべき段階との声も上がるようになりました。

昨年定期総会も対外的な活動もほとんどが、新型コロナのため中止になってしまいました。今年4月に定期総会を開催でき、顕彰活動への意気が高まっています。小中学校での紙芝居と読み聞かせグループとの連携、復活した長野大学信州上田学講座での講習会などのほか、福祉施設の視察や意見交換会なども計画。また、上田市各地区の民児協での意見交換会も事業計画に入っています。会長はじめ民生児童委員の経験者は会員の中にも多く、滋次郎をこの観点から再発見しようとの意見もありました。

なお、顕彰会では民生委員制度の原点について冊子の中で「民生委員制度の発足は岡山済世顧問制度にある」と言っているが、日本政府の考え方である。一方、2018年は大阪の方面員制度が発足してから100年目であり、その方面委員制度が高く評価されて全国に広まり、戦後には民生委員制度となつていくことを考えると、やはり近代日本における救済（または防貧救済）事業と制度設計の原点は100年前（1918年）の大阪にある、というのがわが顕彰会の基本的な考え方である」と明記、この側面での議論にも期待をしています。

昨年定期総会も対外的な活動もほとんどが、新型コロナのため中止になってしまいました。今年4月に定期総会を開催でき、顕彰活動への意気が高まっています。小中学校での紙芝居と読み聞かせグループとの連携、復活した長野大学信州上田学講座での講習会などのほか、福祉施設の視察や意見交換会なども計画。また、上田市各地区の民児協での意見交換会も事業計画に入っています。会長はじめ民生児童委員の経験者は会員の中にも多く、滋次郎をこの観点から再発見しようとの意見もありました。

問い合わせ先：事務局 柳沢英明 携帯 080-5084-2107・電話 0268-75-7005 e-mail : yana-eimei4903@brown.plala.or.jp



▲民生児童委員と小河滋次郎博士顕彰会会員が共同で胸像を清掃。



▲胸像にかかる樹木の枝を伐採



▲上田城跡公園内の胸像は昭和15年、上田市方面委員の代表者が全国から寄付を募って設置したもの。その前に集合した顕彰会会員。

民生児童委員の原点を学ぶ

特集

原点回帰

インタビュー

長野県共同募金会

合津文雄会長

身近なニーズ把握と活動資金。

「共同募金会」「社会福祉協議会」「民生児童委員」は地域福祉推進の三輪車。



社会福祉法人
長野県共同募金会会長 合津 文雄さん

プロフィール

同志社大学卒、信州大学大学院修了。社会福祉士、介護支援専門員。大田市福祉事務所ケースワーカー、市立大町総合病院大町市在宅介護支援センターでソーシャルワーカー・所長を経て、大学で非常勤講師などを歴任。長野大学社会福祉学部社会福祉学科教授(学科長)時代から、長野県共同募金会監事を長年務める。2018年より同会会長に就任し現在に至る。著書：『地域福祉概論』(共著)『介護保険実践ハンドブック改訂版』(編著)『新社会福祉援助の共通基盤』(共著)『現代地域福祉学』(共著)『住民主体の地域福祉論』(共著)『新版 長野県 まるごと介護の本 2012』(監修;著)ほか多数。

今年も「赤い羽根共同募金」運動が10月から翌年3月までの期間に展開されます。社会福祉法に基づく第一種社会福祉事業で、実施主体は各都道府県に設置された社会福祉法人の共同募金会。よって長野県では社会福祉法人長野県共同募金会となります。昭和22(1947)年に始まった、75年の歴史をもつ運動として地域社会にすっかり浸透しているのは「赤い羽根」の愛称を誰もが知っていることから明らかですが、ともしれば募金集めという面だけが注視され「町内会が行うのは半強制ではないか」「募金ではなく公費で行うべき事業もある」などの批判も。これに民生児童委員が巻き込まれてしまうという報告もあります。そこで共同募金の始まりに民生児童委員が深く関わっていたという原点を見つめ直しながら、改めて共同募金の意義、民生児童委員との関係などについて長野県共同募金会の合津文雄会長にうかがいました。

——共同募金と民生児童委員の関係についてのお考えをお願いします。

この募金の大きな特徴は計画募金だということです。つまり、地域福祉にとってどのような事業、活動がどの程度の資金を必要としているのかを把握し、各市町村の社会福祉協議会(以下「社協」と共同募金委員会が検討して募金目標額を定め、それに従って寄付を集めて配分するしくみです。この流れの出発点でもあり、住民にとって身近な存在である民生児童委員の方々の意見が欠かせません。共同募金委員会などに参画していただく場合だけでなく、お一人お一人の日頃の活動がニーズ把握であるという、行政に

も社協にも私たちにもできない役割を担っているのが民生児童委員です。社協、共同募金会、民生児童委員は三輪車で、どれが欠けても地域福祉は進まないと考えています。

——原点ということでは少し歴史をさかのぼっていただけませんか。

日本で福祉関係の法律が整備され公的に制度化されたのは戦後です。それまでは篤志家の寄付や慈善事業という形での福祉で、当然のことながら民生児童委員も関わっています。一方で自然発生的に行われていたと思われる募金そのものの始まりを特定するのは難しいですが、例えば現在も共同募金の

一環として行われている歳末たすけあい募金の起りは明治39(1906)年の同情募金といわれています。その後昭和初期の世界的不況を契機に方面事業助成会が主催する歳末同情週間が各地に広まりましたが、主催団体や名称から分かる通り、現在の民生児童委員が主体だったのではないかと思えます。

戦後の混乱期の、助けを必要とする人が膨大で悲惨な状況の中、政府が『国民たすけあい運動』を提唱、全日本民生委員連盟も『歳末同情運動』を計画しました。厚生省が調整して『国民たすけあい共同募金運動』として共同募金が始まったのが昭和22(1947)年です。その後色々な変遷があり今日に至っているの

ですが、原点は一緒だったわけですが、「公費の及ばないところのニーズへの対応」というのも同じです。

——地域のニーズという点で、この間の共同募金の推移をお願いします。

平成12(2000)年の介護保険制度の始まりまでは、主に施設や自動車の整備などに配分していましたが、これに公費が投入されるようになったことで大きな変化がありました。地域で草の根の活動を行っている小さなボランティア団体、NPOなどによる公益的な活動にシフトしてきています。特にこのところ顕著なのは、自然災害への意識の高まりから自主防災組織の立ち上げが続き、必要な備品への需要が増えている点です。自主防災組織には民生児童委員が関わっている例もあると思いますが、防災倉庫、発電機、照明などの要望が多くなっています。

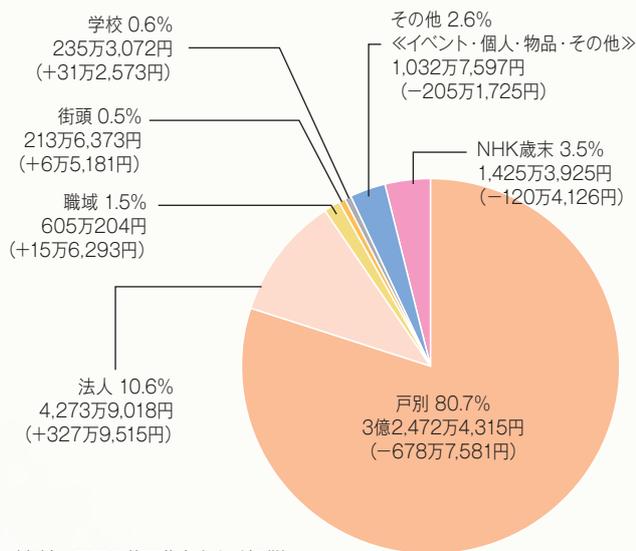
しかし残念ながら募金実績額は平成8(1996)年度をピークに減り続けています。(グラフ参照)ただ目標額に對する

令和3年度共同募金実績

	全国	長野県
共同募金総額	16,950,228,800円	402,584,504円
一般募金	12,664,560,388円	388,330,579円
地域歳末たすけあい募金	3,688,990,040円	※一般募金とあわせて実施
NHK歳末たすけあい募金	596,678,372円	14,253,925円

■募金方法別割合

(昨年度比較)



〈資料：長野県共同募金会より提供〉

「困ったときはお互いさま」の精神が生きている証だと思えます。共同募金の意義は金額の多寡だけで測られるものではなく、このような精神にこそあるのではないかと考えます。

——最後に民生児童委員へのメッセージをお願いします。

先ほど原点についてお話しましたが、自然災害での被災、コロナ禍での低所得者層の生活困難など、危機的状況がいつ私たちを襲つかは分かりません。また地域の福祉課題とこの頃は多様化してい

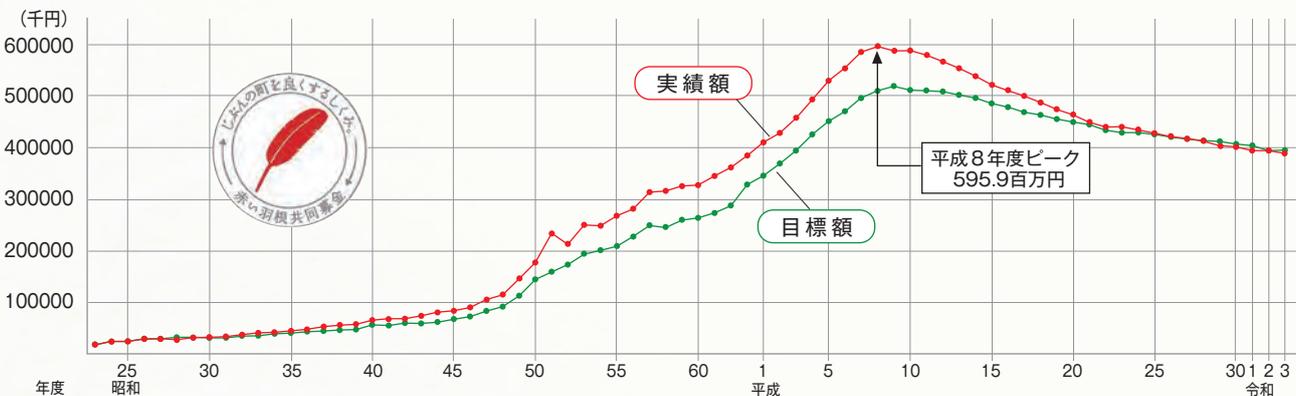
る達成度としては、コロナ禍でもおおむね目標を達成できました。大きな災害発生時にも同じ傾向がみられるのは、「困ったときはお互いさま」の精神が生きている証だと思えます。共同募金の意義は金額の多寡だけで測られるものではなく、このような精神にこそあるのではないかと考えます。

て、公費で即時・一律に対応できない部分で常が生じます。民生児童委員は地域の現場において住民の目線で福祉課題を発見し、解決に向けて諸機関と連携することが出来ます。資金面は共同募金という協働関係を、社協を通じてますます深めていただければと思います。二者が三輪車として走り続けることが地域福祉の未来を照らすものと考えています。

共同募金については、知名度はありますが、実は真の意味での共同募金の理解促進の必要性を感じており、現在色々な取り組みを考えているところです。私たちも努力してまいりますので、みなさまには住民に最も近い立場から共同募金の意義についてお伝えいただければと思います。

長野県共同募金会 昭和23年度～令和3年度 一般募金目標額・実績額の推移

〈資料：長野県共同募金会より提供〉



▲ピーク時から減少が続きますが、共同募金の意義は助け合いの精神にあることも重要です。「広報の重要性を感じている」と合津会長。



▼共同募金の使途と民生児童委員協議会

民生協の研修に共同募金の配分は多くあります。研修だけでなく、例えば民生協として独自の事業をする場合などにも活用できますので検討を。

▼シールは「赤い羽根」

赤い羽根を使うようになったのは第2回目の共同募金から。当時アメリカで水鳥の羽を赤く染めて勇気や善行の象徴として使っていたのをヒントにしたのですが、日本では不要になった鶏の羽を使いました。

▼共同募金の発祥は

「共同募金」という考え方を初めて実践したのはアメリカのオハイオ州クリブランドで1913年のこと。19世紀後半から社会事業が大きく発展し組織化が進む一方で、個々の寄付金募集を統合する考え方が生まれました。色々な試みがあった中、クリーブランド市の商工会議所が主体となって募金の調整のあり方を研究し「共同募金」の創設につながったといわれています。

▼日本初の共同募金は

外国での共同募金のあり方は日本にも知られ、長野県社会事業協会が我が国初の共同募金を実施しました。大正10(1921)年のことで、孤児院や方面委員など9団体に15,764円が配分されました。毎年実施の予定でしたが、2回だけで終わってしまったとのこと。

訪問



記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



高森町民生児童委員協議会



▲総勢28人、前列中央ストラップをしているのが中島会長

毎月交代で書くエッセイが見守り活動を支え、独自の活動アイデアのである定例会

天竜川西側の段丘地帯に丸く広がる人口約1万3千人の高森町。定例会の会場となっている福祉センターは、役場など行政機関の集まる高台にあり、眼下に天竜川と両岸の街並みを一望できます。飯田市への通勤も便利で人口減少、高齢化のペースとも比較的遅く推移しています。会長の中島武さんは民生委員5期、会長としても3期のベテラン。「民生委員として独自のことができないか」を課題として

天竜川西側の段丘地帯に丸く広がる人口約1万3千人の高森町。定例会の会場となっている福祉センターは、役場など行政機関の集まる高台にあり、眼下に天竜川と両岸の街並みを一望できます。飯田市への通勤も便利で人口減少、高齢化のペースとも比較的遅く推移しています。会長の中島武さんは民生委員5期、会長としても3期のベテラン。「民生委員として独自のことができないか」を課題として

独自活動のひとつ目は「高森町民生児童委員便り」の発行です。題して「お元気ですか」。委員が毎月交代でエッセイを書き、編集委員も一言添えて一枚に構成。大きな文字とカラフルな写真やイラストが目を引きまします。これを独居高齢者宅には必ず、あとは担当委員の判断で訪問して手渡しなが見守ります。庭仕事やワクチンなど身近なテーマが話のきっかけになり、中には毎月保存して年末に感想をくれる人もあるとのこと。

もうひとつのオリジナルは「合唱団」。男女半々の28人は混声合唱団としての迫力十分で、指揮も委員がつとめる徹底ぶりを施設訪問やイベントで披露して好評だったのですが、残念ながらコロナで中断中。復活を待っているところです。

5月の定例会では主任児童委員から「子どもとその家庭をサポートする各種団体や個人をつ



▲委員が交代で執筆の民生児童委員便り「お元気ですか」

なげる活動をした」との発案がありました。不登校生の多さなど現状への危惧からで、もちろんオリジナルのアイデアです。「子どもサポーターを主任児童委員に任せきりなのは民生委員の弱点。まだ構想段階だが、今後具体化したら参加を希望する委員も出てくるだろう」と会長がフォローします。活動内容や形態によって有志によるプロジェクトが発足してもいいし、民児協としての取り組みにしてもいいとの考えです。

創造的で風通しの良い高森町民児協ですが、当初からマスク姿の一期目委員と親しむ機会のないこと、行事がスケジュール通りに行われるか不確実であることなど、新型コロナの影響が計り知れないのは同じ。これには顔を曇らせた中島会長でした。

坂城町民生児童委員協議会



▲「坂城」「中之条」地区は1時半から



▲「村上」「南条」地区は2時半から
前列左から3人目が塚田明会長

イベントも定例会もままならない状況下、
できることを工夫して活動継続につなげる

中小たぐさんの企業・工場が集積する工業の町、また埴科郡ただ一つの自治体として独立を保つ坂城町は人口約1万4千人。雄大な千曲川が町を縦断し、起伏ある景観が広がります。

新型コロナウイルスのため定例会中止が続き、やっと開催できた4月と5月も、39人を半数ずつ2回に分ける形式に。広い会場を確保できず、コロナの状況が安定しないための苦しい措置との説明から定例会は始まりました。司会は4人の副会長の持ち回り。体調がすぐれない

ならムリせず欠席を、との注意喚起があり、今年の運動会は開催されるが民生児童委員含む来賓はなしとの残念な報告も。

活動の停滞どころか、委員が一堂に介する機会さえ持ちにくい中、会長の塚田明さんは、朝の散歩を小学生の登校時間に合わせることで見守り活動になると自身の工夫を紹介し、この状況でもできることはあると委員を励まします。

塚田会長は元県職員。県民文化会館勤務時代から民生委員を務めるようになり現在3期目。改選時

期が近づき、引退予定だったのを考え直したところです。民生児童委員活動自体が引き継がれなくなる可能性を心配するからです。自身が新人だったころは複数期の先輩が多く、学びながら、相談しながら活動できました。一期目の思い出は児童館での流しそつめん設置からすべて行い、子どもたちが大喜びだった姿が思い浮かびます。5月は町の子どもフェスティバルにブースを出し、揃いの真つ赤なジャンパー姿で大鍋から麦茶をふるまうのが恒例でした。全員参加で、民生児童委員の格好の広報にも。秋には、やはり独自活動として独り暮らし高齢者のお楽しみ会を開催。踊りや手品などプロフィールの腕をもつアマチュア芸人を招く舞台も食事のふるまいも大好評でした。

これらはすべて中止。視察も委員間の親睦を深める機会もないまま3年。「一期の方との付き合いは定例会だけ。でも会議だけでは進歩がない」と会長。工業の町に多数在住する外国人労働者とゴミ問題、野良猫問題など、民生児童委員活動に無関係にみえることも高齢者に最も身近な存在として連絡が入る日常。そんな信頼関係を守る責任を感じています。先の見えない状況下「せめて毎月の『大人からのあいさつ運動』の日に地域に出て」と呼びかけています。

表紙写真募集!!

表紙を作品発表の場、地域の紹介の場にと考えています。日ごろ写真を趣味にしているらっしゃる民生児童委員の方々、OBの方々の写真を募集します。自薦他薦は問いません。地域の風景やお祭りなどの風物詩がテーマです。

デジカメで撮った作品の電子データをCDRまたはUSBメモリーに入れて、撮影者のプロフィール、写真の内容に関する説明を添えて、つなぐ事務局までお送りください。

お問合せ 長野県民生委員児童委員協議会連合会事務局 TEL026-225-1613

メール：nminji@nsyakyo.or.jp 〒380-0936 長野市大字中御所字岡田98番地1 長野県社会福祉協議会内



表紙写真紹介

白馬八方池と
白馬三山

撮影／編集者



令和4年度長野県民生委員児童委員協議会連合会事業計画（要約版）

「支えあう 住みよい社会 地域から」～住民の笑顔、安全、安心のために～

I 事業の方針（※要約版）

※一部省略・要約して掲載しています。

一昨年、新型コロナウイルス感染症が出現し、その後ワクチン接種は進んでいるものの、繰り返すまん延の波は、日常生活や経済活動などに非常に大きな影響をもたらし続けています。自粛生活の長期化に伴う外出やコミュニケーションの機会の減少で、社会的孤立や児童虐待、DV、さらには生活困窮世帯の増加など地域住民が抱える課題はより深刻化しています。

ウィズコロナ、ポストコロナの時代にあっても、常に住民の立場に立ち、「住民の笑顔、安全、安心」の実現に貢献できるよう、次の事業を進めてまいります。

さらに、今年は7月に3年ごとに行う「長野県民生委員児童委員大会」を安曇野市で開催し、12月には委員の一斉改選が行われるなど、例年にない行事が予定されていますので、その準備にも万全を期してまいります。

II 事業の重点（※要約版）

※一部省略・要約して掲載しています。

1 地域社会での孤立・孤独をなくす運動の推進

日々の相談・見守り活動を充実させる支援を行うとともに、行政や地域の関係団体等と協力しながら共助の取り組みを進めます。

2 地域における子育て支援活動の推進

児童虐待や犯罪被害等から子どもを守り、課題を抱えた親子を早期に発見し、つなぎ、支える活動に取り組みます。

3 災害に備える委員活動の推進

災害時に円滑な対応を行うためには平常時に避難支援などの確認や日頃の地域住民とのつながりが重要であるため、行政機関や地域の関係団体と連携・協力しながら、災害に備える活動の取り組みを進めます。

4 生活困窮世帯（生活困難家庭）への相談支援活動の推進

生活困窮者自立支援制度における民生委員・児童委員の行政等への協力や必要な情報共有など生活就労支援センター「まいさぼ」等関係機関との連携を進めます。

5 民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりの推進

「委員の活動の目安と考え方に関するQ&A」や委員活動に関する各種手引きなどを活用し学習してもらうとともに、委員相互の情報交換を活発に行える定例会となるよう情報提供などの支援を行い、活動しやすい環境づくりを推進します。

6 市町村民児協の組織強化の推進

地域版活動強化方策作成の支援・協力をを行うとともに、一斉改選による新任委員のスキルアップについて支援します。

7 広報活動の充実

地域住民などに、民生委員・児童委員の制度や役割と活動への理解を深めてもらうため、ホームページの充実を図るとともに、県との連携を強化しながら広報に努めます。

※第25回長野県民生委員児童委員大会 令和4年7月29日(金) 13:00~16:15 安曇野市豊科公民館大ホールで開催します

新コーナー 民生児童委員活動報告

※県内各地の活動を紹介します！写真1枚と解説200文字以内を添えて、県民児連事務局までお問合せください。

報告1 被災地長野市長沼地区から

2019年10月の千曲川氾濫で被災した長野市長沼地区。全壊した「味噌蔵(小川醸造場)」が2021年に復活し、民生児童委員8人が恒例の味噌づくりをし、同年12月に一軒一軒届けました。(写真は被災もした一人暮らしの高齢者に手渡す地区会長の深瀬敏一さん)



※災害の特集はつなぎ140号参照

報告2 つなぎ広報委員から

つなぎ145号の特集「訪問便りの事例」を参考にして、広報委員でもある上田市真田地区会長の山口三千夫さんがオリジナルで作成。「コロナ禍でもできることを」と、担当地区へ配布したものです。

※長野県民児連公式サイトにも掲載しています。



長野県内の民生児童委員さんへ向けた地域に寄り添った広報誌として発行されている「つなぎ」の編集に携わってからは、早くも2年が過ぎ、任期の終わりが近づいてまいりました。振り返ってみると、コロナ禍という思いがけない未曾有の出来事によって世界中が一変する中で、民生児童委員の活動自体がままならないという事態に直面し、広報委員会としても誌面取材ができず任期中に2回も発行を延期するという異例の決断を体験しました。

オミクロン株の影響により4月の発行を見送った「スプリング147号」は、この度「サマ147号」として再編集され、皆様にお届けすることができました。

今回の特集記事は、本年度が民生委員・児童委員の改選年度に当たることから、改めて民生児童委員としての意義を深掘りし、自らのお役目を見直す機会の一助になればとの願いを含めた内容を企画しました。かつて民生児童委員制度制定の立役者として多大なる貢献をされた上田市出身の小河滋次郎博士をはじめ、県内における民生児童委員と関わりある団体の歴史について学んでいただくことができました。

(委員 林 みな)



広報委員/委員長 月岡 幽美子(飯山市)・山口 三千夫(上田市)・赤羽 節夫(松本市)・林 みな(岡谷市)